

『どのような糖尿病患者に心筋虚血の精査をすべきか
— 日本発のエビデンスから —』

糖尿病患者の心血管リスクは高いことが良く知られている。本セミナーでは、心筋シンチグラフィを中心とした本邦の多施設検討結果から、糖尿病患者の中でも特にどのような背景や徴候をもつ患者に心臓の検査をすべきか言及し、検査後の治療適応について考察する。



第53回日本糖尿病学会年次学術集会
ランチョンセミナー53

2010年5月29日[土] 12:00-12:50

第17会場 [ラヴィール岡山 6F フルールの間]

岡山市北区駅元町1-10

どのような 糖尿病患者に 心筋虚血の 精査をすべきか

— 日本発のエビデンスから —

座長

島野 仁 先生

筑波大学大学院人間総合科学研究科 内分泌代謝・糖尿病内科 教授

演者

西村 恒彦 先生

京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 教授

ランチョンセミナーは予約制となっております。
予約をお済みの方から優先的にご入場いただけます。

共催 第53回日本糖尿病学会年次学術集会
日本メジフィジックス株式会社



第53回日本糖尿病学会年次学術集会 ランチョンセミナー53
日本メジフィジックス株式会社

どのような糖尿病患者に 心筋虚血の精査をすべきか

— 日本発のエビデンスから —

座長のことば

筑波大学大学院人間総合科学研究科 内分泌代謝・糖尿病内科 **島野 仁**

糖尿病患者は、心疾患のリスクが高いことは古くから知られている。また比較的症状がないことも周知の事実である。ただし、近年日本人でも虚血性心疾患が増大傾向にあり、その意味で、最近集められた日本人のデータが示される本講演は、大変興味深い。

演者

京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 **西村 恒彦**

糖尿病患者の心血管リスクは高いことが良く知られている。本セミナーでは、心筋シンチグラフィを中心とした本邦の多施設検討結果 (J-ACCESS trial) から、糖尿病患者の中でも特にどのような背景や徴候をもつ患者に心臓の検査をすべきか言及し、検査後の治療適応について考察する。

略 歴	
昭和47年3月	京都府立医科大学 卒業
昭和48年4月	大阪大学大学院医学研究科 入学
昭和52年3月	同 修了(医学博士)
昭和52年4月	大阪大学医学部附属病院 医員(中央放射線部)
昭和53年4月	国立循環器病センター 医員(放射線診療部)
昭和57年7月	ハーバード大学マサチューセッツ総合病院(米国) 留学
昭和58年7月	国立循環器病センターに復帰
昭和60年7月	同 医長(放射線診療部)
昭和62年4月	同 主任医長(放射線診療部)
平成3年6月	大阪大学医学部 教授(トレーサ情報解析)
平成11年4月	大阪大学大学院医学系研究科 教授(トレーサ情報解析)
平成11年7月	京都府立医科大学 教授(放射線医学教室)
平成15年4月	京都府立医科大学大学院医学研究科 教授(放射線診断治療学)
現在に至る	

役員

日本心臓核医学会(平成12年会長、平成16~18年理事長)、日本核医学会(平成16年会長)、日本医学放射線学会、日本磁気共鳴医学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本生体医工学学会など理事および評議員を務める。